

## カナダ 農産物輸出はアジアでの拡大に目を向ける

FreshFruitProtal 2023年11月7日

カナダのローレンス・マコーレー農務・農産食料大臣は、アジア向け農産物輸出を拡大・多様化するため、農産物マーケティング事業の下で農業関係者向けに2,300万カナダドル(1カナダドル=約110円。以下「ドル」)の基金を創設すると発表した。同大臣はベトナム、日本、韓国を訪問し、主要な業界団体と会って新しいビジネスの機会と関係構築を促進し、カナダの様々な農産物や食品を売り込み、地方自治体の代表者とも交流した。

同大臣は、「私が初めて農業大臣に就任した2015年には、わが国の農産物輸出額は560億ドルであった。この職に戻って来た時(2023年)、その額は920億ドル以上に増加した。私の目標は輸出を伸ばし続けることであり、それは勤勉なカナダの農業生産者のために市場を開放し、機会を創出することから始まる」と語る。

同国の経済パートナーシップを強化し多様化することにより貿易と投資を拡大し、サプライチェーンを強靱化することは、2022年11月に発表されたカナダのインド太平洋戦略の主な優先事項の一つである。

カナダは、初のインド太平洋農産物・食品事務所(IPAAO)をフィリピンのマニラに開設することを約束し、その存在感をさらに強化している。昨年、カナダの農産物・食品の日本への輸出額は54億ドルに達し、日本にとってこの分野で第6位の供給国となった。韓国は、インド太平洋地域におけるカナダ初の二国間自由貿易協定の相手国でもある重要な市場である。

2022年の同地域へのカナダの農産物・食品の輸出額は合計218億ドルであった。2018年から2022年の間に、この地域への農産物・食品の輸出は7%近く拡大し、この地域からの輸入は9%近く増加した。

## 南アフリカ 港湾物流と落葉果実の輸出円滑化計画

FreshPlaza 2023年11月7日

落葉果実の輸出シーズンが本格化する中、様々な果樹業界団体(Hortgro(落葉果実生産者団体)、SATI(生食用ブドウ業界団体)及びFPEF(青果物輸出業者団体))は、トランスネット(港湾等管理運営公社)とともに、特にケープタウン港(PoCT)に関し、戦略面と運用面の両方について引き続き取り組む。

シーズンを通して毎週、核果類、生食用ブドウ及び早生ナシの出荷のピーク時には特に会合が開催され、予想される果実の動きや港湾の運営状況について情報交換を行っている。直近の会合では、落葉果実業界はこれからのシーズンにケープタウン港を通る貨物の物理的な流れに懸念を表明した一方、トランスネットの経営陣は、計画の改善、機器の追加調達、現場での保守能力及び予備部品確保の改善を約束した。トランスネットの各部門(TNPA(運営部門)、CTCT(コンテナターミナル)、CTMPT(多目的ターミナル))は、それぞれの準備計画の進捗状況を共有し、果実業界の支援を求めるいくつかの項目をリストアップした。

主な詳細内容: TNPAは、ケープタウン港の効率を改善するための8項目の計画を説明し、8つの重点分野(配送基盤としての同港の最適化、悪天候への対応、輸送車両の運用の改善、海運サービスの最適化、情報共有と港湾業務の可視性の向上、ターミナル設備と港湾インフラ、人員管理、差し迫った危機の管理)に関する最新情報を提供した。また、16基の係留装置の追加取得とその引き渡し、CTCTの岸壁の浚渫、船舶の利用可能性、祝日シーズン中の勤務シフト、港の運営に関する信頼性の高い情報の提供など、具体的な最新情報が示された。

CTCTとCTMPTは、労働者と機器の数と利用可能性、電源ポイント、リーファーコンテナとトラックの配置計画、ゲートの管理、トラック予約システム、夜間の運用とベルコン地区の内陸ターミナルの使用、CTCTでの3岸壁の運用とCTMPTでの2岸壁の運用への復帰について報告した。

公社と業界団体の共同声明は、「我々は、これらの計画と取組みが今後数か月で違いを生み、物流の改善を実感できることを期待する。また、果実業界は保守要員(機械工等)を契約し派遣する仕組みと、緊急に必要なとされる主要な機器の調達を迅速に進める方法を調査することに合意した。トランスネットがそれらの調達した機器を使用し、弁済するための費用と契約上の取り決めは、今後詰める」としている。